

令和6年度 自己評価結果

佛教大学附属こども園

1 佛教大学附属こども園の教育目標

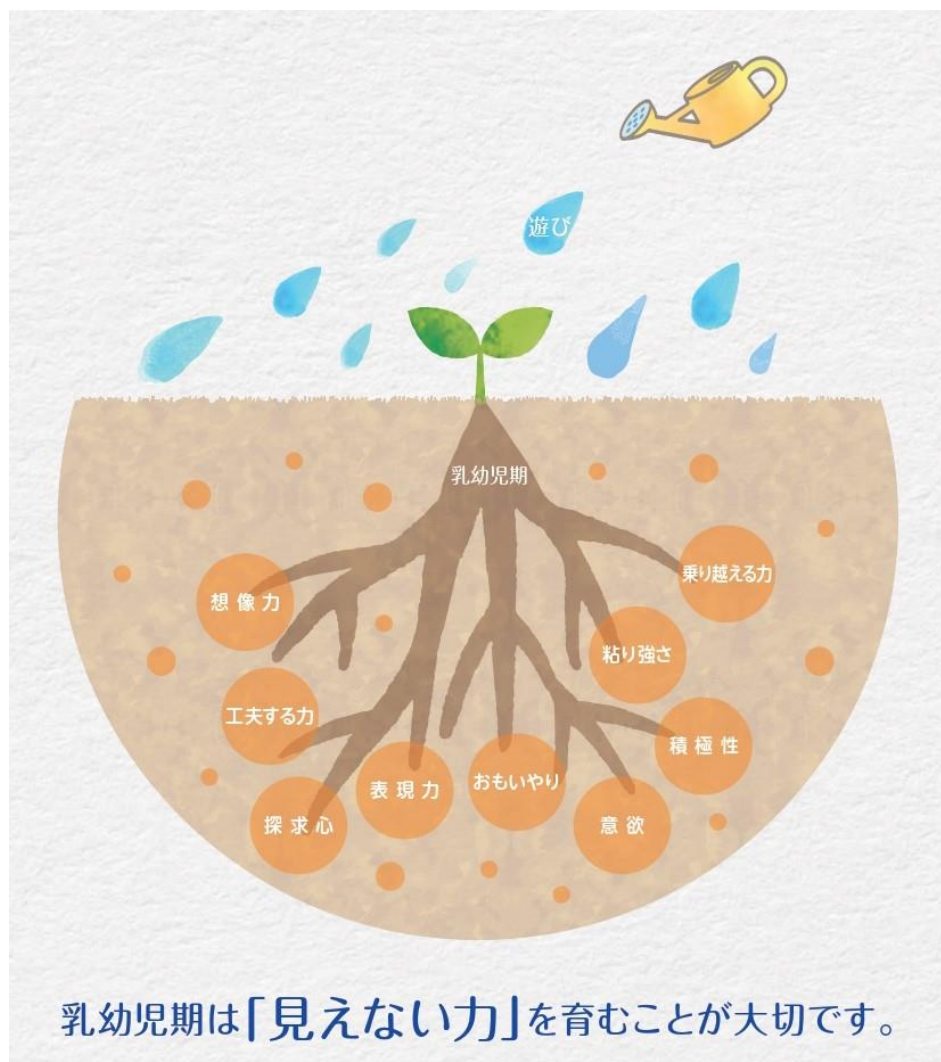
佛教大学附属こども園は、嵯峨広沢の自然と歴史に恵まれた美しい静かな環境の中で幼児の心身の発達を助長するとともに、仏教精神による情操豊かな人間を育成することを目的として、日々の保育を行っています。1976年（昭和51年）の佛教大学附属幼稚園創立から49年が経過し、幼児教育・子育て支援の場として地域社会にも貢献していくことを志しています。

教育目標を「仏教精神に基づく情操豊かな子ども」「健康で意欲的に活動する子ども」「身近な環境に関わり創造する子ども」の育成としています。重点目標を、仏教精神、特に法然上人のみ教えに基づき、行事・作法を通して生命を尊重する豊かな心を培うとし、一人ひとりを大切にしながら子どもたちの**自己肯定感**を育てています。

乳幼児期に育てることが必要と言われる「**非認知能力**」の中でも、自ら取り組む喜びを感じる「**主体性**」、ともに生きる喜びを感じる「**協働性**」を育むことに主眼を置き、それらを**自然の中で自ら心を動かして遊ぶこと、友だちと体を十分に動かして遊ぶこと**などを通して育みたいと願っています。

2 本年度に重点的に取り組んだ具体的な計画や目標

- 幼保連携型認定こども園教育保育要領理解に基づく「指導計画」の見直し
- 保育の振り返りを基盤とした子ども理解
- 安全対策の推進
- 子育て支援の推進



3 評価項目

評価項目	取り組み状況
1 指導計画 (a) 全体的な計画・指導計画の見直し。	・各学年ともに、月始にねらいを設定し、月末に乳幼児の姿から環境構成や援助の在り方・ねらいを見直した。昨年度に引き続き、幼保連携型認定こども園教育保育要領で重点が置かれている社会情動的スキル（非認知能力）への理解を深め、指導計画のねらいがその育成につながるものとなっているか確認した。 ・0歳から2歳児に関しては個別の支援計画を立て、一人ひとりの発達を踏まえ、月ごとの目標を持ち、援助や環境構成の在り方を検討した。
2 子ども理解 (a) 一人ひとりの子ども理解に努め、乳児から幼児にかけての発達を理解する。	・エピソード記述（ドキュメンテーション）やポートフォリオを作成し保育者間でそれらを持ち寄り、子どもの姿についてともに振り返る機会を持ち、子どもの内面理解についてそれぞれの気づきや考えを出し合い子ども理解を深めた
3 安全対策 (a) 0～5歳児が安心・安全に園生活を送ることができるよう、点検・施設整備を行う。 (b) 子どもの心身の健康面に係る対応について教職員間で共通理解を図る。	・担当を決め、定期的に遊具・園舎全体の点検を行った。老朽化等対応必要箇所については早急に備品等を購入し、環境の再構築を図った。 ・子どもの投薬については、医師の指示書提出を義務付け、安全に投薬することができるよう体制を整え、実施した。食物アレルギーへの対応が必要な子どもについては、医師の診断をもって対応を要することを徹底し、対応策が必要な子どもが明確になるようにした。誤食防止のため、食物アレルギー対応児についての代替えの食材を保護者に示すようにした。
4 子育て支援 (a) 園行事やクラス別懇談会において、「大切にしたい育ち」について保育教諭と保護者が共通理解を図ることのできる機会を設ける。 (b) 子育て講演会・子育てトーク等、保護者同士がともに語り合うことのできる機会を設ける。	・園行事・クラス別懇談会などでは、各学年における「大切にしている育ち」を伝えるようにした。子どもの心の育ちを共有できるよう、保育者が保育中のエピソードを紹介した。保育方針と保育の内容に関しては、副園長が全クラス懇談会で説明し、保護者の理解を図った。 ・れんらくアプリで保育のドキュメンテーションを配信し、大切にしている育ちや保育者の関わり方や願いを各家庭に伝える機会とした。 ・育友会主催で互いに子育ての悩みなどを話し合うことのできる「おしゃべりひろば」を実施したことで、悩みを保護者間で共有できる時間となった。

4、評価の具体的な目標や計画の総合的な評価

幼保連携型認定こども園に移行して2年目を迎えた。改めて環境や保育内容の見直しに取り組んだ。本年度も幼稚園時からの「大切にしたい育ち」を踏襲し、常に子ども内面の育ちに目を向け、「心の教育」の実践に取り組んだ。アンケートの結果から、保護者の方は、子どもたちの心の育ちを概ね実感している。

幼保連携型認定こども園「幼保連携型認定こども園教育保育要領」を基盤に作成した「全体的な計画」を見直した。月の指導計画において、日々の記録に残されている保育者の援助や環境構成をもとに、指導計画のねらいや内容を振り返り、省察した箇所がわかるように明記している。

乳児の発達については日々の保育の中で子どもの姿から学ぶところが大きい。今後も、日々の保育者同士振り返りから育児担当制や環境構成など、0～2歳児の育ちに見合った保育の在り方を考察していく。

安全対策においては、各地で震度5以上の地震や水害が発生するなど年々課題が変容していく。有事の際に子どもの安全を第一に迅速に対応できる多様な側面からの具体策を毎年見直す必要がある。

個人面談やクラス別懇談会に加え、副園長からも保育の方針や内容等について話す機会を作った。どの学年の保護者にも同じ内容を伝えることで、保育内容の共有や子どもの内面の育ちの実感に結びついたのではないかと考える。

子育て支援においては、講演会後の個別相談やおしゃべり広場など少人数において悩みや思いを伝えやすいことわかる。SNSなどが進化し、人と人の直接的な関わり合いが希薄になっている時代だからこそ直に保護者同士関わる中で大人も安心感をもって子育てできるような取り組みを展開していきたいと考えている。保護者同士の横のつながりが広がるような園の取り組みが必要である。

令和7年度は、創立50周年を迎える。佛教大学附属幼稚園の時代から大切に守ってきた一人ひとりの心を大切に育てる保育の発展に向けて、教職員で保育の在り方についてともに考えることのできる園内研修、他園の見学などに取り組む。

5、今後取り組むべき内容

課題	具体的な取り組み方法
全体的な計画・指導計画の作成	・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき、全体的な計画・指導計画の見直しを図る。 ・長時間保育を必要とすることの増加に伴い、縦割りで行う14：00以降の保育計画を見直し、ねらいや内容を具体的に示していく。
安全対策	・乳幼児の安全・健康を確保する観点から、修理・修繕必要箇所は迅速に対応するとともに、子どもの健康に関して園の看護師や園医とともに対応方法について相談する。 ・気候変動を考慮し災害時の対応を年度ごとに見直し、有事の際に即対応できるように激甚災害を想定しながら、訓練にあたる。 ・けがや発病など想定外の事態が起こった時のマニュアルを見直し、教職員で共通理解を図る。
子育て支援の充実	・育友会事業を生かしながら、保護者同士がともに作業や運動に取り組んだり、語り合ったりすることのできる機会を作る。R7年度も機会を捉えて園として保育の方針を伝え、園と家庭が「乳幼児期に大切にしたい育ち」について共通理解を図り、園と家庭が方向を向いて子育てに取り組むことができるようにする。

6、施設関係者の評価

佛教大学附属こども園は、「仏教精神に基づく情操豊かな子ども」「健康で意欲的に活動する子ども」「身近な環境に関わり創造する子ども」の育成を教育目標として、総合的な努力をしていると高く評価できる。以下、評価項目ごとに述べる。

1. 「全体的な計画・指導計画の作成」に関しては、一人ひとりの発達段階をふまえて月ごとの目標を設定し、保育者間で共有しながら子ども理解を深める取り組みをしていると評価できる。
2. 「安全対策に関しては、定期的に遊具と園舎全体の点検を行い、園児の怪我や災害などを想定した訓練が行われていると評価できる。
3. 「子育て支援の充実」に関しては、クラス別懇談会の実施、れんらくアプリの活用など、保護者と保育者のコミュニケーションを重視した子育て支援の充実を図っていることが評価できる。

今後の課題としては、長時間保育を必要とする子どもの増加に伴う保育計画の見直し、多様な保護者に対する支援の充実、幼保連携型認定こども園へ移行したことによって生じる教職員の負担への配慮が挙げられる。

《佛教大学教育学部准教授》

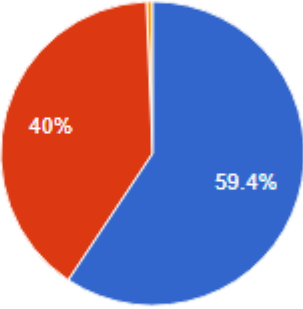
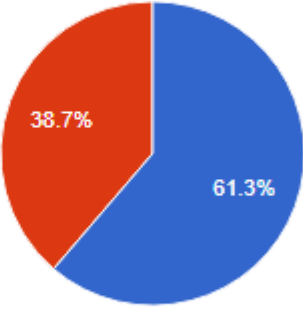
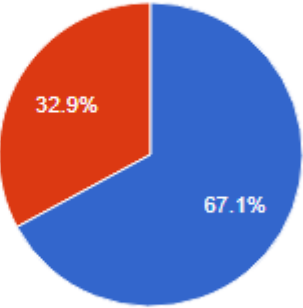
「日々、慌ただしく過ぎていく中での子育ての悩みを少しでも外に出せる機会があれば、またがんばろうと思えるのではないか」そのような機会がほしいという保護者の思いを汲んでくださり、お忙しい中「おしゃべりひろば」を開催してくださいました。副園長先生が自ら顔を出してくださったことで、日々の保育のお話も個別に聞け、保護者の安心した様子や嬉しそうな様子が伺えました。

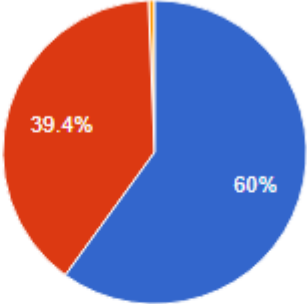
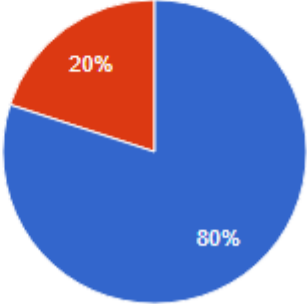
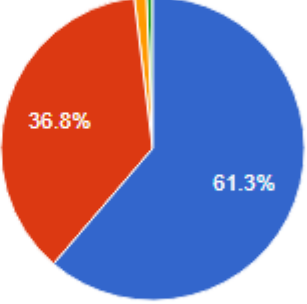
1年間の育友会事業を通して、形式的な事業だけでは得られなかった経験を本部役員はじめクラス委員さんにも味わってもらえたと感じています。

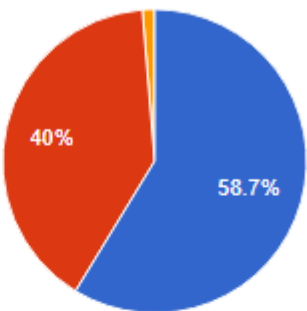
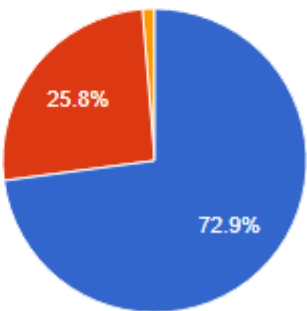
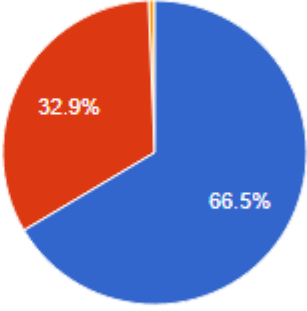
駐車場に進行方向の矢印などを書いてわかりやすくしてはどうかと思いました。こども園になってから、様々な方が送迎されており、悪気なく逆走している車や、それに対して怒っている保護者をよく見かけます。

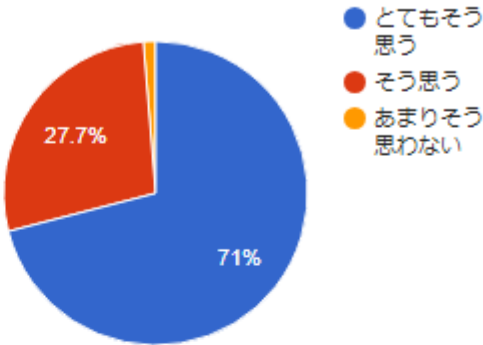
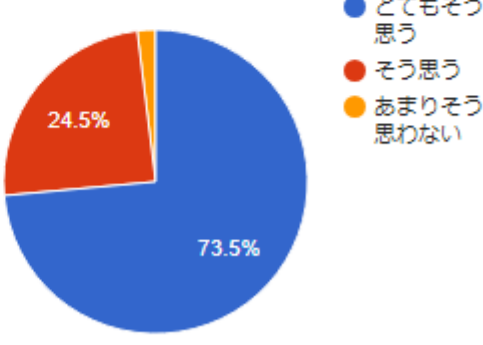
《保護者代表》

【1年間の保育を振り返って（アンケート）集計結果】

Q.1	こども園の教育方針を理解していますか。	 ● そう思う ● とてもそう思う ● あまりそう思わない
回答数	そう思う:92  とてもそう思う:62  あまりそう思わない:1 	
Q.3	こども園は教育方針に基づいた保育を展開していると思いますか。	 ● とてもそう思う ● そう思う
回答数	とてもそう思う:95  そう思う:60 	
Q.4	こども園は子どもたちの生きる力の土台を育んでいると思いますか。	 ● とてもそう思う ● そう思う
回答数	とてもそう思う:104  そう思う:51 	

Q.5	こども園の保育は、一人ひとりを大切にしたものになっていますか。	 ● とてもそう思う ● そう思う ● あまりそう思わない
回答数	とてもそう思う:93  そう思う:61  あまりそう思わない:1 	
Q.6	お子さんは園に安心できる保育者がいますか	 ● とてもそう思う ● そう思う
回答数	とてもそう思う:124  そう思う:31 	
Q.7	保護者の方は園に相談できる保育者がいますか。	 ● とてもそう思う ● そう思う ● あまりそう思わない ● そう思わない
回答数	とてもそう思う:95  そう思う:57  あまりそう思わない:2  そう思わない:1 	

Q.8	お子さんは自分が大切にされていると感じ取ることができますか。	 ● とてもそう思う ● そう思う ● あまりそう思わない
回答数	とてもそう思う:91  そう思う:62  あまりそう思わない:2 	
Q.9	お子さんは自ら「やってみたい」という気持ちが育っていますか。	 ● とてもそう思う ● そう思う ● あまりそう思わない
回答数	とてもそう思う:113  そう思う:40  あまりそう思わない:2 	
Q.10	お子さんは人と関わる喜びを感じ取ることができますか。	 ● とてもそう思う ● そう思う ● あまりそう思わない
回答数	とてもそう思う:103  そう思う:51  あまりそう思わない:1 	

Q.11	お子さんは自然に触れて遊ぶことを喜んでいますか。	 ● とてもそう思う ● そう思う ● あまりそう思わない
回答数	とてもそう思う:110 そう思う:43 あまりそう思わない:2	
Q.12	お子さんは体を動かして遊ぶ気持ちよさを味わっていますか。	 ● とてもそう思う ● そう思う ● あまりそう思わない
回答数	とてもそう思う:114 そう思う:38 あまりそう思わない:3	